

「京都を学ぶセミナー-南山城編」第8回（開催報告）

2019年12月17日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2017年度から開始した「南山城の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【南山城編】」第8回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2019年12月17日（火）13:30~15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 178名
- 内 容 講 演 種智院大学教授 佐伯 俊源
「飛鳥仏教と南山城-高麗寺の創建をめぐる一」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

南山城地域には、多くの古代寺院が所在する。その一つが、7世紀初頭に創建された高麗寺である。今回のセミナーでは、高麗寺を取り巻く南山城地域が取り上げられた。

古代においても、南山城地域は木津川による豊かな水資源と山野に囲まれた地域であった。古代の都の所在地は変遷するが、南山城地域はその外縁に位置し、独特の発展を遂げていく。一方、大陸や半島からの渡来人たちもこの地を經由し、深い関係を築いていた。大陸からの先進文化である仏教が早く流入し、多くの古代寺院が造営される必然性を、南山城地域の歴史的・地理的環境にみてとることができる。

従来、高麗寺は渡来人系の氏族高麗氏の氏寺であるとされてきたが、それだけでは高麗寺の広大な伽藍の存在を説明することはできない。南山城地域は、高句麗系渡来人が多く居住していた。それに加えて、高句麗から日本海を横断し、北陸に上陸し都にいたるルートにも位置し、高句麗からの使節を歓待する相楽館も設置されていた。こうした古代東アジアの国際環境も、高麗寺の創建の前提となったのである。

高麗寺だけにとどまらないスケールの大きな議論が展開され、来場者からは「南山城の歴史的位置と高麗寺の関係が東アジアの情勢と合わせて興味深い」「自分が住んでいる馴染みのある地域のお話しでわかりやすかった」といった好評を得た。

